

# 再評価結果（平成21年度事業を見直し継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道246号 <sup>やまきた</sup> 山北バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：神奈川県足柄上郡山北町向原 至：神奈川県足柄上郡山北町川西			延長	5.6km (1.0km)	
事業概要	一般国道246号山北バイパスは、線形不良区間及び狭小幅員区間の解消及び異常気象時における通行規制区間の解消を目的とした延長5.6kmのバイパス事業である。					
S51年度事業化	S52年度用地着手		S52年度工事着手			
全体事業費	約500億円 (約45億円)	事業進捗率	約60%	供用済延長	4.6km	
計画交通量	19,700台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 0.9 (1.2) (残事業) 2.2 (8.3)	総費用 (残事業)/(事業全体) 156(7.6) / 707(51)億円 事業費：143(4.8)/685(48)億円 維持管理費：13(2.8)/22(2.8)億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 341(63) / 707(63)億円 走行時間短縮便益：270(61)/528(61)億円 走行経費減少便益：59(1.6)/143(1.6)億円 交通事故減少便益：12(0.86)/31(0.86)億円	基準年 平成20年度		
感度分析の結果	事業全体・残事業について感度分析を実施 【事業全体】 交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.4 (事業費±10%) 【残事業】 交通量：B/C=7.5~9.1 (交通量±10%) 事業費：B/C=7.8~8.8 (事業費±10%) 残事業期間が1年のため、事業期間変動による分析なし					
事業の効果等	・線形不良区間の解消及び狭小幅員区間の解消 ・規制区間の解消（防災対策） ・交通混雑の解消 など					
関係する地方公共団体等の意見	向原地区国道246号線早期改修促進委員会(昭和61年4月 山北町長より副申)					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	一般国道246号は、東名高速とともに東西の物流を支える路線であり、線形不良、狭小幅員のため物流交通に支障を与えている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	諸淵・谷峨・瀬戸地区の延長4.6km区間は、既に暫定2車線で供用済。 向原地区については、用地取得率が約96%であり、暫定2車線整備に向け工事推進が可能。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	向原地区の用地取得率は約96%であり、平成21年度の暫定2車線供用を目標に用地取得・工事推進を図る。					
施設の構造や工法の変更等	暫定2車線により整備を進め、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業を見直し継続					
対応方針決定の理由	暫定供用済区間(L=4.6km)については、暫定2車線整備をもって事業を休止する。 向原地区(L=1.0km)については、用地・工事の進捗が進んでおり、暫定2車線で早期の効果発現を図る。 4車線化については、交通状況を勘案し別途検討する。					
事業概要図						

延長、全体事業費、費用対効果欄にある( )書きは向原地区(1.0km)を対象とした数値。  
総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。